

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

研究開発構想名

鉱山町生野発

兵庫県立生野高等学校

未来型課題解決能力を持つ  
地域の担い手を育成する  
IKUNOモデルの研究開発

- 所在地■ 兵庫県朝来市 但馬地域（第5学区）の最南端
- 生徒数■ 172名（1年48名、2年55名、3年69名）
- 設置学科・類型■ 普通科観光・グローバル類型（特色学科・全県学区）定員40名  
普通科地域探究類型（第5学区＋神崎郡神河町）定員40名
- おもな沿革■ 1913(大正2)年創立、1986(昭和61)年理数コース設置  
2003(平成15)年科学探究コースに改編  
2018(平成30)年現在の2類型に改編。観光・グローバル類型全県募集

1 事業の概要

2 成果

3 課題

4 今後の方向性

進路

教科学習  
(学校生活)



就職を意識した  
枝葉の成長

基礎学力  
+  
人間力

生野高校での成長の樹

探究学習

自ら行動し学ぶ力  
(知識を吸収する根っこの育成)  
+  
社会人基礎力の育成  
(社会人に必要な様々な基礎技能)



1 事業の概要

2 成果

3 課題

4 今後の方向性

### 3年間の探究授業における流れ

ゆめいく  
キソ

ゆめいく検定→  
全員がフィールド  
ワークへ行き、  
現地調査  
(1年生)

ゆめいく  
プロ

課題解決策の提案  
→実践→検証  
(2年生)

ゆめの実現を助ける Project  
これからのゆめを Produce

ゆめいく  
レポ

報告書作成+政治  
的教養を育む教育  
(3年生)

- 1 事業の概要
- 2 成果
- 3 課題
- 4 今後の方向性

## 「自分事」として実践し提案 【動画作成→行政へ提案→市HP掲載】

「ゆめいくプロジェクト 行政と在日外国人を高校生が  
つなぐ ～外国人に分かりやすいゴミの捨て方とは～」

> Waste Disposal Video Tutorials ごみの出（だ）し方（かた）のビデオ

[2020年12月18日] ID:9054

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます



The second year students at Ikuno Senior High School have created videos on how to dispose of waste in Asago. The videos are really simple to understand, so feel free to have a look and check the rules regarding waste disposal. Remember to check your garbage collection calendar and put your trash out on the correct day by 8 : 30 AM.

生野高校（いくのこうこう）2年生（ねんせい）の生徒（せいと）さんがビデオを作（つく）ってくれました。ゴミの出（だ）し方（かた）を簡単（かんたん）に説明（せつめい）しているから、見（み）てください。ゴミ収集（しゅうしゅう）カレンダーを見（み）て、正（ただ）しい日（ひ）に午前（ごぜん）8時（じ）30分（ぷん）までにゴミを出（だ）しましょう。

出典：兵庫県朝来市ホームページ

- 1 事業の概要      2 **成果**      3 課題      4 今後の方向性

## 「高校魅力化評価システム」2021年11月調査より 【本校の強み】

### ① 学習活動

グループで協力しながら学習や調べものを行う **86.4%**

### ② 学習環境

挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある **78.1%**

### ③ 生徒の自己認識

自分とは異なる意見や価値を尊重することができる **82.4%**

### ④ 生徒の行動実績

授業で分からないことを、自分から質問した **70.4%**

## 「高校魅力化評価システム」2021年11月調査より 【伸びしろ】

① <b>学習活動</b>	
日本や世界の課題の解決方法について考える	<b>48.1%</b>
② <b>学習環境</b>	
地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	<b>48.7%</b>
③ <b>生徒の自己認識</b>	
複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	<b>40.2%</b>
④ <b>生徒の行動実績</b>	
地域社会などでボランティア活動に参加した	<b>33.7%</b>



## 「コンソーシアムIKUNO協議会」でいただいたご意見より

- 学校とコンソーシアム構成団体の**それぞれが「できる」ことの意味を出し合う対話の場**が必要だったと思う。
- **ともに「学校づくり」を行うという意識を進めると**、関わる地域側にとって、さらに能動的な関わりができるのではないか。
- 教職員の人事異動や体制の変動により、市費負担の**コーディネーターの配置趣旨「地域と学校をつなぐ役割」**などが教職員に浸透しにくくなっていないか。また、この取組が一部教職員の担当業務になっていないか。

- 1 事業の概要
- 2 成果
- 3 課題
- 4 今後の方向性

## 「地域魅力化関連授業」における課題

- (1)** 多くの学校設定科目や専門科目を配置し、生徒の「深い学び」に繋がる取組ができた。しかし、マンパワーで成り立っていた部分もあり、特定の教員の負担感に繋がってしまった。
- (2)** コロナ禍の影響により、テクノロジー関連の提案・実行ができなかった。しかし、「テクノロジーの授業」として、Society5.0時代に生きる高校生としての視点から考える取組は構築できた。
- (3)** 教職員の人事異動や授業担当者の変更があっても、これまでの取組が継承できるかが心配されている。持続可能な体制づくりを今のうちに構築しておくことが求められている。



## 「地域魅力化関連授業」における今後の方向性

- (1) 選択科目（学校設定科目や専門科目）については、この3年間の各授業の取組の検証結果を踏まえて、精選と内容の再編を行う。このことにより、マンパワーに頼らずに授業を実施できる体制を構築する。
- (2) 「テクノロジーの授業」を基礎にして、地域と協働しながらテクノロジーの活用方法を地域活性化策の提案・実行に繋がられる取組を進める。
- (3) 「**持続可能**」な取組の推進。教職員の異動があっても対応できるように、「ゆめいくワークブック」を今年度末までに作成。新しく本校に着任される教職員にも配布し、本校の探究活動の取組を理解してもらい、全教職員が機能的に授業に関われる体制づくりを強化する。

1 事業の概要

2 成果

3 課題

4 今後の方向性

## 事業終了後のコンソーシアムとの協働について

- コンソーシアムとの協働活動に取り組んでいることは、本校にとっての大きな財産であり、事業終了後も継続して学校と地域が協働していくことが、本校にとっての大きな使命である。
- 生徒がこのような学びの機会を通して、地域活性化策を提案し、高校生としてでき得ることを実践できることは、予測不可能な未来社会の一員として生きていくための大きな糧となる。
- 引き続き、コンソーシアムの皆様との協力・協働体制をとりながら、より実践的な活動へ発展させていきたい。